

脳大成理論 1-11

『本物と偽物（フェイク）』

ここでは、脳大成理論における土台となる考え方を共有いたします。

そもそも脳大成理論は何のために学ぶのでしょうか？まずはその目的を明確にします。

脳大成理論を学ぶ目的は、『なりたい自分になる』ためです。更に具体的に表現すると以下となります。

『あなたがあなたの人生の主人公として、あなたがあなたの人生の責任を果たし、あなたの人生を愛し、可能性の最大を実現する。』

わたし達は、本当に人生の主人公として生きているのでしょうか？また、わたし達が人生において果たすべき責任とは何でしょうか？そして、わたし達は自分の人生を愛しているのでしょうか？更に人生の可能性の最大を目指しているのでしょうか？

これらが脳大成理論を学ぶ上での絶対的なテーマです。このことについては後に記述いたします。

そして、脳大成理論を学ぶ事で以下を得る事ができます。

『あなたがあなた自身の人生で得たいものは何でも脳大成理論を学び実行すれば手に入る状態となる。』

歴史上の人物であれ、現在活躍されている方であれ、わたし達が望むものを実現した、又は実現している人は必ずいます。それらの方とあなたの脳は特別な障害でもない限り全く同一なのです。つまり、全人類が脳を指令として行動した結果得た成果であり、脳の指令によって実現させたのです。であるならば、あなたの実現したい事も例外なく、脳を活用すれば実現可能となります。しかし、ここではあくまで手に入る状態となる、という事なのです。手に入る状態ではありますが、それを手に入れるには次の条件が必要となります。

『あなたの得たいものが志の過程にあり、且つあなたが開く可能性を誰かと共有し、誰かの可能性を開くものであれば手に入れられる。』

得られる状態となったものを実際に得るためには、2つの重要なポイントがあります。

まず、あなたの得たいものが誰かの役にたつものであり、広義において社会の役に立つものである必要があります。つまり、志しの過程にあるものでなければ、得る事はできません。

続いて、あなたが得た可能性の開きを、誰かと『共有』し、共有した結果、その共有した人の可能性を開くものであれば、あなたの得たいものを手にする事ができます。

詐欺師としての可能性を実感し、誰かを騙そうとしたとして、それは共有した相手の可能性を開くものにはなり得ません。その場合、必ずその人は失墜します。

上記を踏まえた上で、脳大成理論を学び実践することで、脳の使用領域が拡大し、可能性が拡大します。

脳の使用領域が拡大することで、活動領域や使用パターンが変わる事で、以下の5つのいずれか、もしくは複数の変化が起こります。

『感じ方の質が変わる。感情の種類が変わる。考え方のレベルが変わる。行動が変わる。見える景色が変わる。』

この変化が基盤となって、人生の可能性を拡大させるものとなるのです。

このことを、脳大成理論では『Enlargement (エンラージメント)』と呼びます。上記の5つの変化が起こったという事は、人生において、エンラージメントが起こったという事になるのです。

そのためにまずわたし達が扱わなければならないのは、わたし達が『どういう自分か?』という事です。

わたし達の現象化のプロセスを極めてシンプルに表現すると、「BE・DO・HAVE」というプロセスで表現できます。

BEは、『なる』という意味であり、あなたの『あり方』を示しています。

DOは、『する』という意味であり、あなたの『行動』やあなたが選択する『方法』を示しています。

HAVEは、『える』という意味であり、あなたの行動や、あなたが選択した方法によって得られる『成果』を示しています。

つまり、あなたの『あり方』によって『行動』や選択する『方法』が規定され、それによりあなたの得られるモノや成果が決まるという事なのです。

成果や結果の元はあなたの「あり方」なのです。

あり方を変えずして、方法を変えたとしても、一時的な変化にしかならず、元に戻ってしまいます。

例えば、詐欺師は、詐欺を行い人を騙してお金を稼ぎます。詐欺師はなぜ人を騙すのか？それは詐欺師だからです。

人の選択や解釈、行動は、全てあり方によって決まるのです。

だからこそ、あり方を見つめ直す必要があるのです。もっと言うなら、あり方を変えない限り本質的な変化や成長、成果はあり得ないのです。

なぜあり方が重要なのかは脳のメカニズムから証明できます。あり方=デフォルトモードネットワークと言えるのです。※デフォルトモードネットワークについてはここでは省略いたします。

では、どうやってあり方は構築されるのでしょうか？わたし達のあり方は、脳のインポートデータに依存しています。

わたし達の脳の活動は『インポートデータ』が起点となっているのです。インポートデータは、脳の毛様体賦活系の作用と連動していると言えます。これはRAS（ラティ

キュラーアクティベートシステム)とも呼ばれています。RASは、無意識脳による情報のふるい分けフィルターの役割を担っているのです。

インポートデータは以下の事を人生に起こします。

- インポートデータにより無意識脳が情報のふるい分けを行う
- インポートデータをより確かなモノとするための証拠が集まる
- インポートデータは世界の真実だと思い込んでいる
- それ以外の脳への情報入力は一切起こらない

わたし達は、自分と向き合った時、実際に望んでいない自分になってしまっています。つまり、自分が本当に大切にしたい事を大切にしているのではなく、今までの人生の過ごし方によってできあがったインポートデータから世界を見ているのです。

脳大成理論では、望んでいない自分のあり方を【偽物（フェイク）】と呼んでいます。逆に本当に自分が望んでいる自分、本当になりたい自分、本当にありたい自分、可能性に満ちた自分の事を【本物】と呼んでいます。

しかし『本当にありたい自分』を見いだすには、絶対的な基準が必要です。例えば、長く夫婦を営む中で、「もう主人には期待していません…」とおっしゃる方がいます。もう何十年も夫婦をしていく中で、御主人に希望を持たないという事が最も自分を維持できる方法だったのでしょう。これは本当に望むあり方なののでしょうか？

本当に望むあり方は、次の基準から考えると導き出す事ができます。

脳大成理論では、人は「善・親切・可能性」で出来ている。と力強く定義しています。あなたが目指す本物は「善・親切・可能性」という基準から導き出すべきなのです。

インポートデータは決して自分の望んでいるモノばかりではありません。むしろ、望んでいないモノを脳にとっての重要な情報としてしまっているケースがほとんどです。

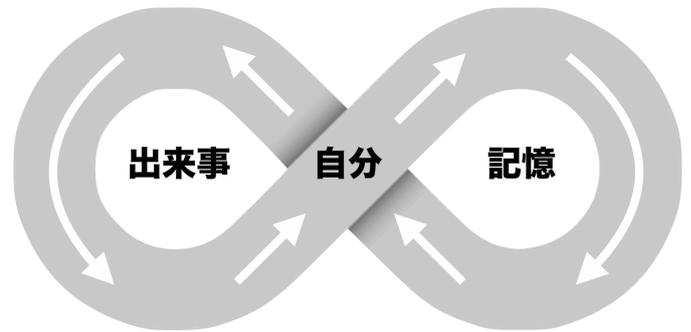
では、どうやってインポートデータは脳に形成されるのでしょうか？

わたし達が人生で犯す大きな間違いは、出来事を自分としてしまうこと、記憶を自分としてしまうことです。

例えば仕事でミスをしたとします。事実としては、仕事でミスを起こしたという出来事が起こったにすぎないのですが、わたし達はその失敗やミスを「自分はダメな人間だ」と意味づけしてしまいます。つまり、出来事と自分をくっつけてしまうのです。「仕事でこんなミスをする自分はダメな自分だ」というような具合にです。今度は出来事と自分をくっつけて、それをわたし達は記憶します。すると今度は、記憶と自分をくっつけてしまうのです。また『トラウマがあるから、私は〇〇が怖い。』『私は恋愛が苦手』『人前で話す事は得意じゃない』などという考え方は、まさに記憶と自分をくっつけてしまっている事から起こります。

更に、誰かとのコミュニケーションにおいて、繰り返された自分の意に沿わないやり取りから、その経験を記憶し「あの人はこういう人だ」と対象を固定させてしまうのも、出来事と自分、記憶と自分を結合させた結果できあがったインポートデータであると言えます。

つまり、右の図のように、出来事と自分をくっつけて、更に記憶と自分をくっつけてを繰り返す事で、脳にインポートデータができあがるのです。そして、できあがったインポートデータを通して、わたし達は人生を見る事になるのです。



インポートデータは、記憶と意味ネットワークによって説明できます。記憶は、『数と強度』によってヘブ学習則に基づき強化されます。

わたし達が繰り返しそのことを意識したり、また感情を付帯させることで、インポートデータは強化されていきます。

そして、インポートデータは意味ネットワークにより、つながっていきます。意味ネットワークとは、脳のメカニズムで、ある単語を使った瞬間に次に使う単語の候補が自動的に決まっているというものです。

そして、なぜ出来事と自分を結合させていしまうのかという理由は、左脳がもつ役割であるインタープリターモジュールで説明ができます。わたし達の左脳は、出来事の原因を常に考え続けています。左脳は、自動意味づけ装置なのです。いわゆる、自己行動に対する説明は、全てが事後観察に基づいた後付けの説明であり、無意識で行われた処理は全く含まれていません。更に左脳は整合性のあるストーリーにはめ込むためならねつ造さえ行うのです。

だから、出来事と自分を結合させてしまうのです。

要約すると以下になります。

わたし達の情報入力や認識は、脳のインポートデータを中心に行われる。

インポートデータは、出来事と自分・記憶と自分を結合させる事によってできあがる。出来事と自分を結合させてしまうのは、左脳のインタープリターモジュールの作用である。インポートデータは、脳の記憶のメカニズムと意味ネットワークにより形成される。結果、インポートデータを世界の真実だと思い込み、望まない自分のあり方となってしまう。これをフェイク（偽物）という。

よって、わたし達は脳のメカニズムを学び、自身と向き合い、フェイクを見つけ、本当になりたい自分、ありたい自分（本物）を創造していく事が生まれてきた目的である。

共に本物を目指す我々でありましょう。